

教材・支援機器活用実践事例（特別支援学校版）

実践年度・タイトル		平成（26）年度
		デジタル教科書の活用
授業について	教科名等 （該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。）	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input checked="" type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 その他（ ）
	単元・題材名	○生活単元学習「身近な生活」 ・「TP0に合わせた服装や言葉遣い（敬語の使い方）（身だしなみ）（校長室に行こう）」 ・「電話で用件を伝えよう（電話の使い方や話し方）（内線電話をかけてみよう）（携帯電話やスマホを使ってみよう）（外線電話をかけてみよう）」 ・「わからないことを教えてもらおう（ウォークラリーをしよう）」 ・「身体の仕組み」 ・「インターネットで調べよう（パソコンの使い方）（好きなこと）（釧路について）」 ・「ハガキを出そう（郵便局の働き）（友達にハガキを出そう）（ポストに出そう）」 ・「警察や消防、病院の働き（警察の働き）（消防の働き）」
	授業の目標	○日常生活や社会生活に必要な態度や習慣が身に付くよう、知識や経験を広げる
	観点別学習状況の評価の観点 （教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。）	■「知識・理解」 ■「技能」 ■「思考・判断・表現」 ■「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	学習集団と子どもの実態	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない （1・2・3）年（15）人 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症 <input checked="" type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD（学習障害） <input checked="" type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥/多動性障害） <input type="checkbox"/> その他 ■見る ■聞く ■話す ■読む ■書く ■計算する ■推論する ■運動と姿勢 ■日常生活活動 ■不注意 ■多動性-衝動性 ■社会性・コミュニケーション ■覚える・理解する ■その他 ○知識が断片的になりやすく、学習した知識を応用することが難しい。 ○活動に対する意欲が低下している。 ○生活に結び付いた具体的な活動や実際の状況下で学習することで効果的に学ぶことができる。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像 （使用した支援機器・教材の名称を記載し画像を挿入。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。）	【ハードウェア】 ○タブレット端末（iPad） 【ソフトウェア】 ○iBooks author ・教師が教材を作成するために活用 ○iBooks ・生徒が学習する際に活用
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援（ <input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援） B活動支援（ <input checked="" type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援） C学習支援（ <input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> C3社会生活支援） ○教材を共有することで、中学部3年間の指導に系統性をもたせたり、教師の教材研究の負担を軽減したりする。（教材は著作権に十分配慮した上で作成し、共有している。） ○イラストや動画を含めて作成することで、視覚的に情報を提示する。
授業における支援	授業展開と画像 （授業の様子、ICT活用場面の画像を挿入。）	
		○生徒が自分でページをめくるなど、タブレット端末を操作して内容を確認し、学習に取り組む。 ○写真や動画が出てきたり、画像をタッチすれば説明が出てくるようにしたりすることで、内容の理解を促進する。
効果・評価	子どもの様子や変容および授業の評価	○生徒の学習への興味・関心の高まりや主体性、知識獲得の深化、集中力の高まりなどの面で効果が大きかった。 ○生徒がタブレット端末を自分で操作したことで、教科書の必要な部分により注目することができた。また、分からないときにページを戻して確かめたり、授業時間以外にもタブレット端末を使って復習したりすることで、学習の定着の促進につながった。 ○教材研究の負担を軽減できたことだけでなく、指導内容を基に計画的にデジタル教科書を作成したことは、題材に偏りのない系統的な指導をする上で有効であった。